

日本原水爆被害者団体協議会 ノーベル平和賞受賞について

一般社団法人 関西経済同友会
代表幹事 永井 靖二

- 日本原水爆被害者団体協議会(以下、日本被団協)がノーベル平和賞を受賞した。「核兵器が二度と使われてはならないと証言を通じて示してきた」ことが評価された。
- 現在、世界各地で紛争があり、平和が脅かされている状況下で、日本被団協が受賞されたことは誠に意義深いことである。
- 1956年の設立以来、永年にわたり平和を守る活動をされてきた日本被団協に心から敬意を表するとともに、今回の受賞が若い世代に受け継がれ、核廃絶、恒久平和の実現に繋がることを切に願う。
- 関西経済同友会は、再び戦争を起こしてはいけないという強い決意をもって安全保障委員会の活動を続けてきた。平和への道は容易ではないが、我々もこの受賞を励みに地道な取り組みを続けていきたい。

以上